

令和5年度 国立中央青少年交流の家

全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」

オリエンテーション合宿(Take the first step)

令和5年7月15日(土)・16日(日)・17日(月・祝) 2(0)泊3日



○趣旨

ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力を身に付けさせる。また、多彩な人々と協働しながら地域・社会にある課題解決に向けた取組を行うことで、郷土や自然に愛着を持ち、新たな価値を創造する人材を育成する。

○参加者

高校生 29名(宿泊19名、日帰り10名)

○事業の内容 11科目 22単位時間

(1) ガイダンス

国立中央青少年交流の家 企画指導専門職 間瀬 哲章



アイスブレイクによって仲間づくりを行った後、全国高校生体験活動顕彰制度とオリエンテーション合宿の説明を受けるとともに、探究的な学びを進めていく上での心構えを学んだ。

(2) 講話「地域づくりの実践」

横浜市立大学 小池 りりい さん 駒走 旬星 さん

一昨年度の地域探究プログラム全国ステージにおいて、文部科学大臣賞を受賞した大学生の講話を聴くことにより、よりよい地域づくりを実践していくための意欲を高めた。

(3) フィールドワーク①「地域の魅力を発見」

- ・株式会社時之栖 阿山 恭弘 氏(観光) ・有限会社荒井友吉商店 荒井 仁 氏(茶業)
- ・株式会社ノースゲイト 岡田 美幸 氏、社会福祉法人婦人の園 高橋 頼太 氏(福祉)
- ・NPO法人みらい建設部 宮坂 里司 氏(放置竹林)

地域づくりに関する取組についての活動を体験し、その魅力を発見するとともに、地域が抱えている課題について考察した。



(4) 講義・演習①「地域理解」

講義・演習②「課題解決の基礎」

国立中央青少年交流の家 企画指導専門職 間瀬 哲章

講義・演習①では、グループ協議においてフィールドワーク①で得た個の気づきや発見を共有するとともに、フィールドワーク先の活動目的を考えることで、地域理解をより深めた。

講義・演習②では、フィールドワーク①において一人一人が感じた地域の魅力や課題について、自らのアイデアによる仮説(解決策)を立て、グループ全員で共有した。また、フィールドワーク②に向けて、仮説を検証するための質問や取組をグループで検討し、まとめた。

(5) フィールドワーク②「地域課題の探究」

- ・株式会社時之栖 阿山 恭弘 氏(観光) ・有限会社荒井友吉商店 荒井 仁 氏(茶業)
- ・株式会社ノースゲイト 岡田 美幸 氏、社会福祉法人婦人の園 高橋 頼太 氏(福祉)
- ・NPO法人みらい建設部 宮坂 里司 氏(放置竹林)

講義・演習②で立てた一人一人の仮説をグループで検証するため、講師へのインタビューや質疑応答等を行い、疑問点を確認したり、より有効な活動(解決策)を探ったりした。

(6) 講義・演習③「地域課題の探究」

発表①〔グループ発表〕

国立中央青少年交流の家 企画指導専門職 間瀬 哲章

講義・演習③では、フィールドワーク②での検証を踏まえ、互いの良さを活かしながら多面的・多角的に考察し、グループとして1番良いと思う解決策を思索した。

発表①では、講義・演習③の成果として、より有効な活動（解決策）とその根拠についてグループ発表を行った。その際、伝えたいことや構成を明確にするなどのプレゼンテーションの基礎についても学んだ。

(7) 講義・演習④「行動計画の基礎」

発表②〔個人発表〕

国立中央青少年交流の家 企画指導専門職 間瀬 哲章

講義・演習④では、オリエンテーション合宿にて学んだことを踏まえ、一人一人が地元地域で探究活動を実施するための行動計画を作成した。

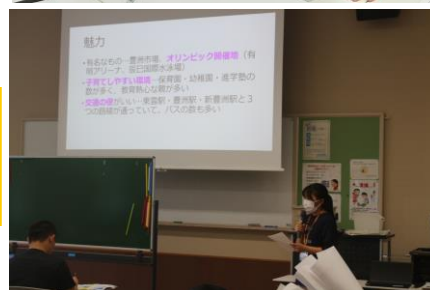
発表②では、個人発表（振り返りや今後の実践活動の展望）を行い、全体で共有した。



(8) 実践活動のためのガイダンス

国立中央青少年交流の家 企画指導専門職 間瀬 哲章

実践活動を実施する上での安全管理や社会のルール・マナーを理解するとともに、実践活動や地域探究アワードなど今後の日程や手順について確認をした。



《事後アンケートより》

【『探究的な学び』に関する理解が深まった】 4段階評価で3以上 100%

- ・探究的な学びは学校で経験したが、なんとなくやっていたため、今回の合宿で理解が深まった。
- ・探究の楽しさを知れ、さらに地域理解も深まったので、学校、私生活にも還元したい。
- ・探究活動に間違いはないことを改めて理解した。
- ・どのように考えて、どのように理解を深めていけばよいかを知ることができた。
- ・自分が好きなこと、やってみたいことを活動内容にすることで、楽しみながら探究することができ、さらには自分のことを知り、新たな自分に気づき、自分を成長させるきっかけもなった。

【『ぜひまた『探究』してみたい』と思えた】 4段階評価で3以上 100%

- ・今回の合宿で論理的に考えることを学び、楽しかった。
- ・自分の住んでいる市にはあまり問題点が無いように感じていたが、視点を変えたりすると問題点が見つかるということが学べ、これからの探究にこの経験はとても役立つと思った。
- ・自分の価値観が広がったと思った。
- ・地域の魅力や課題を発見することができ、課題の解決方法を考える力、主体的に取り組む力をつけることができた。
- ・様々な考えや価値観を持つ人たちと話し合いながら課題を見つけ、解決していくという過程がとても面白いと感じられた。

《成果と課題》

- フィールドワークのコースを、観光・茶業・福祉・放置竹林と、分野が違う4つのコースから選択できるようにしたことで、参加者のニーズに合った地域課題の探究を実施することができた。
- 10校から29名、また県外の高校からも参加があり、講義・演習においては様々な意見交換がなされた。参加者は、同世代の仲間から刺激を受けるとともに、深い学びに繋げることができた。
- 今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の5類移行に伴い、原則2泊3日の宿泊で開催した（ただし、希望者は日帰りでの参加も認めた）。半数以上が宿泊を希望し、寝食を共にすることの利点も活かした人間関係も生まれ、より良い活動を行うことができた。
- フィールドワークの講師や法人ボランティアとの事前の情報共有をさらに密にすることで、より良い活動、より深い学びになると感じたため、来年度以降の事業に活かしていきたい。